20.　校内研修計画

1　令和７年度　校内研究テーマ

自ら学びに向かう 自立した学習者の育成
～　個別最適な学びと協働的な学びの一体化を通して　～

2　テーマ設定の理由

近年、社会を取り巻く環境は急速に変化しており、将来を担う子供たちにはその社会の変化に対応し、主体的に学び、考え、行動できる力が必要とされている。

これまでの校内研修においては、令和５年度に「主体的に学習に取り組む児童の育成～ICT 活用の授業実践を通して～」、令和６年度に「自ら考え、共に学び合う児童の育成　～ICT 活用の授業実践を通して～」をテーマに、ICT を活用した日々の授業実践が児童の好奇心や学習意欲の高まりに火をつけ、「主体的に取り組む児童」の育成に繋がると考え、研修、授業実践を行ってきた。２年間の研究実践を振り返ってみると、ICT 教材に興味を示し、積極的に取り組む児童や自らの思いや考えを ICT 等を活用して発表、表現する児童が増えた一方、自ら進んで学習に参加する主体的な児童の育成には課題が残った。

令和５年度、令和６年度の成果・課題は以下のようである。

成　果	・意見や書くことが苦手な児童が、ICT を活用することで意欲的になった。 ・自立解決時に ICT を活用することで自分の考えを整理しまとめやすくなり、自分の考えをもつ児童が増えた。 ・学び合い時に ICT を活用することで、様々な解き方を共有することができ、考えを広げたり深めたりすることができた。 ・教科や学習内容に応じて、様々な ICT ツールを効果的に活用することで、子ども達の興味関心を高めるとともに、学習内容の定着を図ることができた。
課　題	・興味関心をもって学習する児童が増えてきたが、主体的に学習するまでには至っていない。 ・児童がクロームブックを使って思考するときに、個人差があるため時間配分が難しい。 ・教師自身のＩＣＴに関する理論研（どの単元でどのＩＣＴが使えるか等）やＩＣＴ活用の技術力アップが必要である。 ・ICT を活用すると個々の学習がメインとなるため、ルール順守や学習内容からの逸脱を把握しにくい。

また、本校の児童学習状況アンケートからは、「学習が将来に役立つ」と思っている児童が多い一方で、教科の理解度が全国平均を下回っている。そして、沖縄県児童質問紙の主体性を示す「学習に自分から取り組み、考えて学んでいる。」と回答した割合は 83.4%であり、これも県と比べると決して高くない。この実態は本校児童の学習意欲が高まっていないことが十分な理解力に結びつけていない状況であることを意味している。

これらの現状と課題に加え、本県の学力向上推進施策（令和 7～９年度）において、課題に対応していくため、「授業改善」と「自立した学習者」の育成を核とした目標が策定された。

そこで、本校においても児童一人ひとりの学びに向かう力を確立し確かな学力の向上と可能性を引き出し、予測困難な時代へ柔軟に対応できる人材を育成するために本テーマを設定し、研究・実践に取り組むこととした。

3　「自ら学びに向かう自立した学習者」の定義

「自ら学びに向かう」とは既習の知識や経験をもとに、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断しよりよく解決する能力のことである。また、「自立した学習者」とは目的や状況に応じて、自分に合った学び方を工夫したり、学習意欲を自ら引き出したりして学習できるような児童のことであり、急速に変化する社会を生きるためにも重要な力である。

4　「自立した学習者」育成を支える４つのポイント

「自立した育成者」を育成するためには、児童一人ひとりの学びと成長を支援し、心理的安全性のある４つのポイント「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」の学習環境を整えることも重要であり、「指示的風土の醸成」活かした授業づくりも意識して心がけていく必要がある。

5　「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」とは

「個別最適な学び」とは「指導の個別化」と「学習者の個性化」に分けられ教師か支援の必要な児童により重点的な指導を行うことで効果的な指導を実現することや児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間の柔軟な提供・設定を行うことなど「指導の個別化」が必要である。また、幼児期からのさまざまな場を通じての体験活動から得た児童の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探求において課題の設定、情報の収集、整理・分析まとめ表現を行う等、教師が児童一人一人に応じた活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童自身の学習が最適になるよう調整する「学習の個性化」が必要になってくる。

（図１　寺子屋朝日−朝日新聞「個別最適な学び」と「協働的な学び」）

また、「協働的な学び」とは多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的変化を乗り越え持続可能な社会の作り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成することが必要である。

多様な児童達が埋もれることなく一人ひとりのよい点や可能性が見い出され、あらゆる他者と協働しながら持続可能な社会の作り手となることができるよう、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」の充実が必要であると考える。

6　研究仮説

○学習基盤としてのICTを活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に行うことにより、自ら学びに向かう態度を身に付けた「自立した学習者」を育成することができるであろう。

7　研究目標

「自ら学びに向かう学習者の児童」を育成する学習指導の在り方を、児童の実態や各教科の特性に応じた目指す学びの姿は、以下の通りである。

○低学年では．．．
○中学年では．．．
○高学年では．．．

8　研究の視点

「自ら学びに向かう自立した学習者の育成」のために、次の視点を授業改善の重点として実践研究とする。

視点①　学習基盤としてのICTの活用
視点②「個別最適な学び」と「協働的な学び」一体化
視点③学習状況を評価し、改善に生かすPDCAサイクルの授業展開

9　研究内容

（1）　自ら学びに向かう自立した学習者の育成のための授業改善

ア「自ら学びに向かう自立した学習者の育成」についての理論研修
イ「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」の授業実践研修
ウ　ICT活用を生かした学びの充実
エ　授業形態の工夫

１０　研究方針

（１）　研究については、全職員の共通理解のもとに推進する。

（２）　授業の工夫改善を通して、自分の考えをもち、学び合う態度を育てるように努める。

（３）　全体研究は共通理解の場とし計画に応じて講師を招聘し「自ら学びに向かう自立した学習者の育成」についての研修を深める。R7 年度は教科研修訪問(任意)

（４）研究テーマに迫っていくために、学習指導法の理論や指導過程の研究を深める。

（５）各教科等の特性に応じた「ICT 活用」「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」の教材選定・実施に向けた理論研修に努める。

（６）研究時間の確保の為、毎月第２木曜日を校内研修日に位置づける。

（７）授業研究会は原則として、金曜日の５校時に位置づける。

（８）研究授業の教科は原則として学年で統一し、研究を進める。

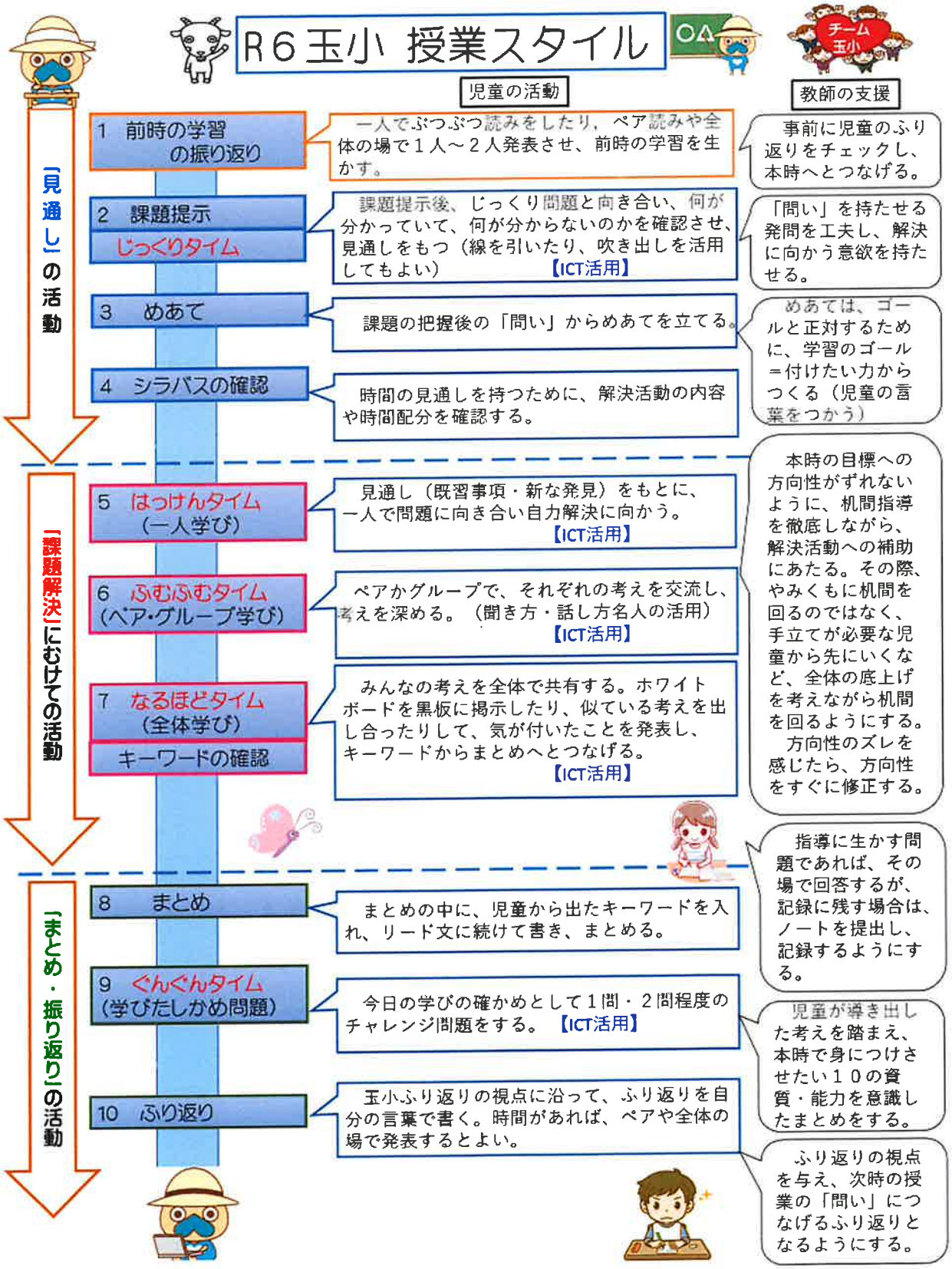
（９）研究会の持ち方を工夫し、自主的に研究会をもつ。また、検証方法に基づいて、研究の成果・課題をまとめる。

(10) 指導案の様式は代表授業は細案、一人一授業、隣学年研は略案としアンケートを含めた学校全体で統一した指導案を使用する。

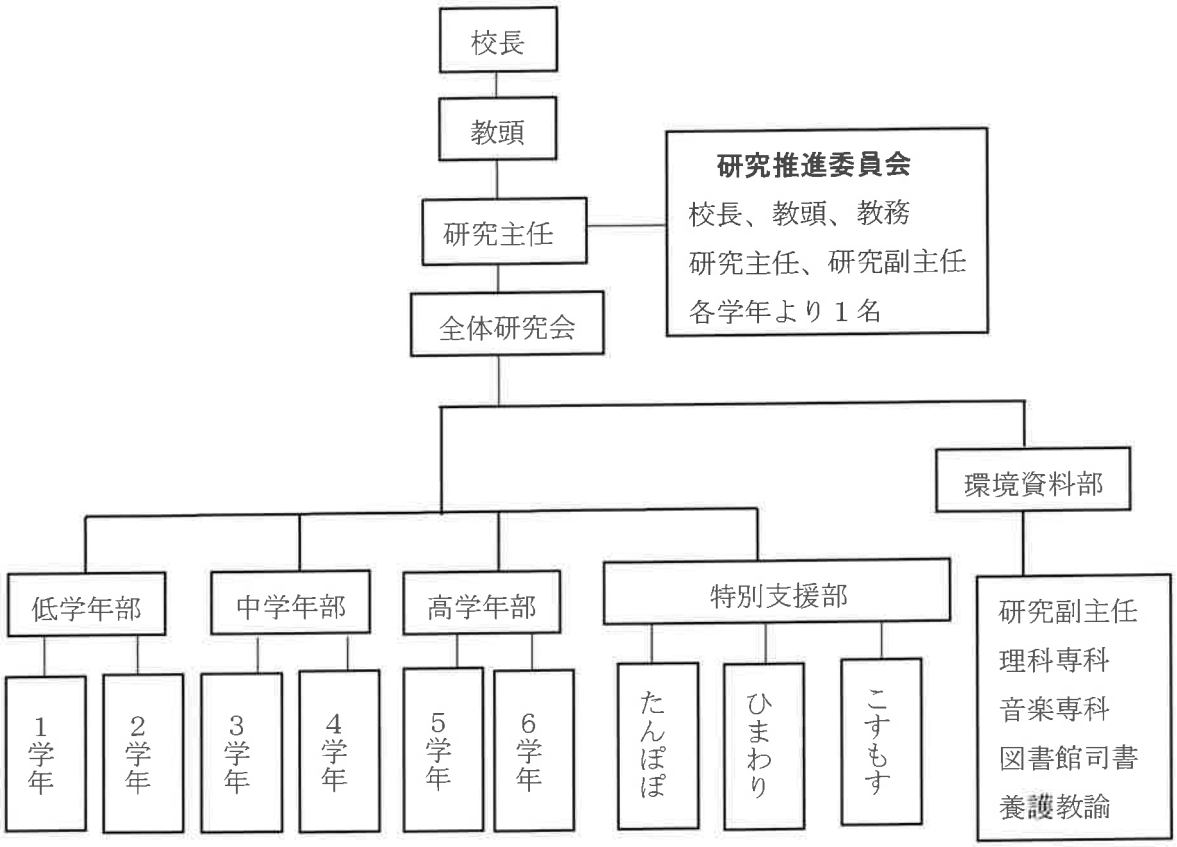
(11) 実践後は、修正した指導案と成果と課題をまとめ、ワークシートや写真等の記録を保存する。

１１　「玉小授業スタイル」

個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指した授業改善を研究し、各学年の児童の特性や発達段階に応じた玉小授業スタイルを考えていく。



１２　研究の組織



研究推進委員会の役割

ア，研究の全体計画（研究の方向付け）
イ，日程調整(各学年の日程調整)
ウ，研究紀要の編集等全体的な研究推進に
　　関わること
エ，その他関連すること

部会の役割

ア，理論研究
イ，隣学年で指導案を作成、検討
ウ，研究授業の実施
エ，授業を参観、反省、評価
オ，研究紀要の編集

全体研究会（全職員の役割）

ア，授業研究会を主として理論を含めて研究を深める。
イ，研究の方法や推進について共通理解を図る。
ウ，各学年からの課題を検討し研究活動の進化を図る。

環境資料部の役割

ア，研修に関わる環境の整備
イ，資料の整理・収集を図る。
ウ，アンケート調査の集計・分析
エ，人材リストの作成

１３　研究の全体構想

【教育実践テーマ】　― 笑顔の登校　満足の下校 ―
夢や希望を育み、心豊かにたくましく生きる「ぐすくっ子」の育成

【めざす教師像】
使命感：情熱、自覚と責任
実践力：わかる授業、楽習、修養
指導力：児童理解、師弟同行

学校教育目標
○進んで学習する子
○心豊かで思いやりのある子
○最後までやり抜く子

【期待する保護者像】
・「生きる力」の基礎となるしつけのできる保護者
・生活リズム（早寝・早起き・朝ご飯・家庭学習等）を大切にし，気力・体力を育てる保護者
・個性や能力を見つけ伸ばす保護者

【本校児童に身に付けてほしい力】
・学びに向かう力
・考えて動く力
・協働する力

学習指導要領改訂の背景・方向性
【背景】
・学習内容だけではなく、資質・能力の育成が重要
【方向性】
・何を学ぶか（内容）
・どのように学ぶか（方法）
・何ができるようになるのか（評

○知識・技能
○思考力・判断力・表現力
○学びに向かう力・人間性

沖縄県学力向上推進（令和７～９年度）
「自立した学習者」育成プロジェクト

【研究主題】
「自ら学びに向かう　自立した学習者の育成」
～個別最適な学びと協働的な学びの一体化を通して～

【研究仮説】
○学習基盤としてのICTを活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に行うことにより、自ら学びに向かう態度を身に付けた「自立した学習者」を育成することができるであろう。

研究の視点
視点①　学習基盤としてのICTの活用
視点②「個別最適な学び」と「協働的な学びの一体化」
視点③学習状況を評価し、改善に生かすPDCAサイクルの授業展開

児童との関係づくり
○生徒指導４機能と児童理解に基づく指導
○児童の居場所づくり・活躍の場づくり

めざす授業像の共有
・「問い」が生まれる授業
・「主体的・対話的で深い学び」のある授業
・学ぶ意欲を高める指導の工夫
・地域人材，専門家を活用した授業の工夫
・コミュニケーション能力の育成
・授業公開と確かな教材研究（一人一授業）
・授業の開始・終了時刻の厳守，授業開始前の立腰と黙想の実施
・「Mタイム」の充実
・専門性の向上（一研究）

研究内容・方法

【基礎研究】
・「自ら学びに向かう自立した学習者の育成」についての理論研修
・「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」の授業実践研修
・ICT活用を生かした学びの充実
　授業形態の工夫

【授業研究】
・学年協働体制による教材研究と指導案づくり
・共通実践の取り組み
・代表授業と全員授業（一人一授業）の実施
・授業研究会の充実
・実践を通した授業分析と改善

玉小ルール（学習規律・生活規律）の共通実践と徹底

１４　令和７年度　校内研修・研究計画

学期	日　程	回	研　究　内　容	組織	担当
1学期	４月　３日（木）	1	ICT 活用講習会（電子黒板・クロームブック）	自主研	情報
	４月　３日（木）	2	児童に対する緊急時対応研修	全体研	養護教
	５月 15 日（木）	3	校内研修計画・「玉小授業スタイル」 ・全体授業・隣学年研・一人一授業について	全体研	研究主
	５月　　日（　）	4	心肺蘇生法研修	全体研	体育主
	６月 19 日（木）	5	授業者決定・指導案形式共通理解	全体研	研究主
夏季研修	７月 24 日（木）	6	夏季校内研修①理論研究	全体研	研究主
	７月 24 日（木）	7	夏季校内研修②	全体研	研究主
	７月 25 日（金）	8	夏季校内研修③	全体研	研究主
	７月　　日（　）	9	南城市教職員研修会		市教委
2学期	９月　日	10	指導主事招聘による代表授業（　学年） 授業研究会	全体研	研究主
	10 月　　日（　）	11	隣学年による授業研究会（　学年）	隣学年	隣学年
	10 月　　日（　）	12	隣学年による授業研究会（　学年）	隣学年	隣学年
	11 月　　日（　）	13	隣学年による授業研究会（　学年）	隣学年	隣学年
	11 月　日（　）	14	隣学年による授業研究会（　学年）	隣学年	隣学年
	12 月　日（　）	15	隣学年による授業研究会（　学年）	隣学年	隣学年
	12 月　日（　）	16	隣学年による授業研究会（　学年）	隣学年	隣学年
	12 月　４日（木）	17	研究集録のまとめ方について 各学年の実践・成果と課題について	職員会議	研究主
3学期	１月３１日(金)	18	各学年の成果と課題提出	全体研	研究副
	２月　５日（木）	19	テーマついて　次年度受けたい研修について	学年研	研究主
	３月 12 日（木）	20	研究内容発表 教職経年研修（２・５・１０年いれば）実践報告	全体研	研究主
	３月 12 日（木）	20	次年度の研修計画の検討・決定	全体研	研究主